

折々の記 No206 : 国益を損なった官邸！ (H25/3/8 記)

今朝の読売新聞記事に看過できない記事が掲載された。その記事は以下の通りである。

民主党の政権下での首相の中では真つ当な首相であった（と小生は認識していた）野田政権下で、斯様なことが行われていたとは信じたくはないが、多分事実であろう。

国益を損ない、中国に誤ったメッセージを送ってしまった付けは大きい。日本は弱腰であり、中国が強くと出れば妥協と譲歩を重ねるはずと認識したのだろう。正に将来に禍根を残したと云うべきだ。“冷静かつ毅然と対応する”と公言していた筈ではなかったのか？ 民主党の中で比較的安全保障に理解もあり、常識的なリーダーであると目されていた野田氏にしてこの様である。

矢張り、民主党が政権を一時的にせよ担ったのは我が国にとってはマイナスであった。小生は、民主党政権の 3 年半は、壮大な実験であり、民主党が真面な政党に脱皮するためには止むを得ないプロセスだったと好意的に判じていたが、甘かった。

民主党政権下ヒステリー状態で決定した「除染目標 1 ミリシーベルト」の見直しを求める動きも出始めた。福島原発の地元住民の帰還の遅れを招いているとして、福島県知事が国に対して目標の再設定を要望したのである。（また、世界保健機関（WHO）が、被爆によるがん発生の恐れを否定したことにも注目すべきだ。）

先般党大会を開催したけれども、その状況を見ても、なぜ国民の信を失ったのか解っていないと感じられ、未だに民主党は反省していないのではないかと思われる。一時的な徒花であっただろう。深刻な反省なき民主党に明日はない。

日本の不幸は、国難に際して最高のリーダーを持ち得なかったことかも知れない。過去を嘆いても仕方がない。現政権には、民主党政権政権下で失ったものを回復し、あるべき日本の姿を求めて、日本の舵取りをして貰いたいものである。（了）